

| | | | |
|-------------------|--|--------|-------------------------------------|
| 部会名 | 子ども部会 | 報告回 | 令和4年度第2回全体会 |
| 委員 氏名 | | 氏名 | 選出母体及び役職等 |
| | 1 | ◎高橋 史 | 府中市肢体不自由児者父母の会 副会長 |
| | 2 | ○長崎 昌尚 | 地域生活支援センターみ～な センター長 |
| | 3 | 山口 真佐子 | 桜美林大学 特任教授 |
| | 4 | 麻生 千恵美 | 児童デイサービスめろでい 代表 |
| | 5 | 清水 孝子 | 東京都立府中療育センター 地域療育支援課 地域療育支援主任技術員 |
| | 6 | 渡辺 里江子 | 府中公共職業安定所 統括職業指導官 |
| | 7 | 佐藤 結希乃 | 東京都立府中けやきの森学園 教諭 |
| | 8 | 原 綾子 | 多摩府中保健所 地域保健第一担当 課長代理 |
| | ※部会長は◎、副部会長は○ | | |
| 現状 | 近年、障害児の子育て支援に関するサービスは充実してきている。また共働き世帯の増加に伴い、保護者のニーズも変化しているのが現状である。 適切なサービスを利用しながら親子共々成長できるよう、地域における支援体制や連携の仕方を検討する必要がある。 | | |
| 検討 テーマ (概要) | 障害のある児童およびその家族等が、ライフステージが変化しても切れ目のない支援を受けられるよう、ツールの活用や地域における体制等を協議していく。 (よりよい障害児支援のあり方や関係機関の連携について様々な角度から検討していく) | | |
| 取組 経過 | 【令和4年度の取組】 各種サービスの充実により親の負担軽減は進んだが、同時に子育てのサービス利用が早期に始まることによって、親子の愛着形成・障害の受容がなされぬまま過ぎていく懸念がある。子どもやその保護者を取り巻く環境等を考慮し、「子ども自身の幸せ」を主体に考えるサービス（親子支援）のあり方とそれを客観的に判断する方法や関わる機関等について幅広く検討し、そこにちゅうファイルの活用機会も見出していく。 | | |
| 検討 結果 | 1 ライフステージが変化しても切れ目のない支援を実現するために (1) つながる先（関係者、関係機関等） 市保健師、助産師会、児童発達支援センター、あゆの子、府中療育センター、たち、みらい、保育所、幼稚園、学校、当事者や保護者の活動団体 (2) つながることのメリット 障害児とその家族にとっては：孤独の解消、課題の共有と解決、将来の見通し（次のステップを知ることができる）、災害時の支援につながる可能性 | | |

健常者や関係機関にとっては:障害児者の存在に気づき、知る機会を得られる。

2 支援の“切れ目”について

(1) 学校への入学時

居住地の学校でなく特別支援学校に通う小・中・高 12 年間、居住地でのつながりが薄くなる。

(2) 特別支援学校（高校）の卒業時

学齢期には充実している「放課後デイサービス等」の支援は、学校卒業後にはない。

(3) 成人後

小児神経科から成人医療への移行の必要性が言われているが、地域に受け皿となってくれる医療機関がとても少ない。

3 切れ目をなくすには、つながりが重要

(1) 人とのつながり（同年代の子ども同士、当事者家族、近隣住民）

(2) 教育のつながり（特別支援学校と居住地の学校、保育施設と療育施設）

(3) 医療のつながり（小児神経科医と地域の医療機関）

(4) 福祉・教育・医療のつながり

4 地域とつながるためには

(1) イベントで交流するのは？

既存の子育てイベントで障害児も参加できるよう配慮をする。

5 今後に向けて

上記のとおり検討してきたが、そもそも障害児とその保護者は地域のイベントに参加したいというニーズはあるのか？参加しないとしたらその理由は何なのか？当事者の声を聞いてみたいという議論に至った。

また、現任委員の専門性により、話題の中心は重度心身障害児や特別支援学校に通う障害児の視点に偏っていて、知的障害、発達障害、その他の障害児（特別支援学級や普通級に通う子等）の現状が見えてこないことから、当事者の声を聞く必要があり、学齢期に焦点をあて、具体的なニーズをヒアリングしたい。

| | | | |
|-----------|-----|-------|---|
| 会議開催状況と内容 | | 日程 | 内容 |
| | 第1回 | 5月17日 | ○各委員が現在感じている障害児支援や子育ての現状と課題について話し合った。 |
| | 第2回 | 7月22日 | ○障害のある児童およびその家族等が、ライフステージが変化しても切れ目のない支援を受けられるようツールの活用や地域における体制等を検討した。 |
| | 第3回 | 9月5日 | ○当事者への聞き取り調査について |